

凡 例

- 一、本書は、『新体詩 聖書 讚美歌集』（新 日本古典文学大系 明治編 第12巻、岩波書店、二〇〇一年）に基づき、適宜注に整理を加え、新たな解説を付して文庫版として刊行するものである。底本は、東京女子大学図書館所蔵の『新撰讚美歌』（著者兼発行者 植村正久・奥野昌綱・松山高吉、印刷者 須原徳義、一八九〇年十二月一日）である（解説二五一頁参照）。なお本書では、植村・奥野・松山の三名を「〔新撰讚美歌〕序」に書かれた内容から、事実上、編者として扱った。ただし、英文の CONTENTS, INDEX OF SUBJECTS, INDEX OF TUNES, METRICAL INDEX, INDEX OF FIRST LINES は収録せず、二百八十六曲ある楽譜は三十曲を抄出して掲載した（「凡例」七参照）。
- 二、漢字・変体仮名は原則として現在通行の字体に改めた。例外的に底本の漢字の字体をそのまま残したものもあるが、常用漢字表にある漢字はその字体を用いた。
- 三、歴史的仮名遣いや送り仮名は原則として底本のままとしたが、「序」の仮名遣いの清濁については校注者において補正した。

四、句読点(。、)、反復記号(、こごくぐ)、傍線・区切り符号(—)・歌詞スラ
 ー()といった符号類は底本のままとした。ただし、「序」においては校注者の判
 断によって句読点を付した。また、本文の歌詞においては、二聯を一行にするなど適
 宜組み替えを行なった。

五、底本にある振り仮名は仮名遣いを整理せず表記されたままとしたが、難読の漢字に
 は校注者による振り仮名を「」内に入れ、現代仮名遣いによって付した。また、文
 意を補った箇所も「」で括った。

六、「新撰讚美歌」目次(13頁)、「いろは分け見出し」(19頁)の各漢数字の下に付した洋
 数字は、本書での掲載頁を示した。

七、底本には二百八十六曲の楽譜が掲げられているが、本書では、三十曲(第一・四
 (29)、七・八(33)、十・十二(35)、十五・十九(39)、二十一・三十一(47)、三十八・
 四十一(55)、六十・六十三(69)、六十八・七十四(75)、八十一・九十七(89)、百十
 五・百二十六(107)、百三十二・百五十二(123)、百六十・百六十三(133)、百六十九・百
 七十二(139)、百七十七・二百六(161)、二百八・二百四十三(185)番)を選んで収め、収
 録理由を各注内に示した(漢数字は讚美歌の番号、その下の洋数字は本書での掲載頁)。

八、解説・注における引用文は、『新撰讚美歌』と文語文のものを除き、読み易さを考

慮して現代仮名遣いとした。なお、引用した聖書の訳文は『聖書新共同訳』（日本聖書協会、一九八七年）により、またそのほかの引用も、振り仮名は省略した箇所もある。九、本文や解説・注内の引用文中の明らかな誤記・誤植と思われる箇所については、適宜正した。

十、本書の中で、現代においては差別的な表現とみなされる語句や文章が用いられている箇所があるが、テキストの歴史性に鑑みそのままとした。

目 次

凡 例

新撰讚美歌序……………	11
〔新撰讚美歌〕目次……………	13
いろは分け見出し……………	19
新撰讚美歌……………	27

注(下山嬢子)……………	221
--------------	-----

〔新撰讚美歌〕……………	251
——明治二十年代ロマンティシズムの源流(下山嬢子)……………	

新撰讚美歌

*
新撰讚美歌序

此ノ讚美歌集ハ明治十九年ノ春一致組合両会ガ撰挙セシ委員ニ由リテ成リタル者ナリ。組合教会ニテハ松山高吉、宮川経輝、田村初太郎、シオルジ、オルチンノ諸氏、一致教会ニテハ奥野昌綱、植村正久、瀬川浅、ジー、エフ、フルベツキノ諸氏ヲ以テ其委員トセリ。明治二十年五月東京ニ集會セル日本福音同盟会ハ大イニ此ノ挙ヲ賛成シテ委員ヲ奨励セリ。殊ニ監督教会ニテハ更ニ委員ヲサヘ立テ此業ヲ助ケントセラレタリ。然レドモ種々ノ都合アリテ十分ニ協力スルコトヲ得ザリキ。此ノ集ノ成ルハ委員総体ノ協力ニ由ルトイヘドモ、其実主トシテ之ガ編輯ニ從事セシハ松山高吉、奥野昌綱、植村正久ノ三氏ナリ。而シテ之ニ譜調ヲ附シタルハ専ラオルチン氏ノ勞ナリ。日本ノ諸教会ニテハ未ダ和音齊声ノ唱歌ヲ為スノ時機ニ達セズ、尙ホ暫ラクノ間ハ同音一声ヲ以テ歌フノ必要ヲ免レザル可シ故ヲ以テ、オルチン氏此ノ集ノ中ニ在ル譜ヲ稍低キ音ニ引キ下ゲタルモノ少カラズ、其数凡ソ百バカリモアラン。委員ハ譜調ヲ定メ本集ヲシテ音楽上成ル可ク完全ナラシメンガタメニオルチン氏ヲ補助セラレタル人々ニ向ツテ厚ク感謝ス。就中オルチン氏令室ノ如キハ譜調校正ノ事ニ付キ大ニ力ヲ尽サレシ故、殊更ニ感謝ノ意

ヲ表セザルベカラズ。本集載スル所ノ譜ノウチ、ハリス、ニユーアーク、シンプソン、ノ三ツハ基督敎聖歌集ヨリ採リタルナリ。毎章譜名ノ下ニ掲グル数字ハ音句ニ表出スルモノトス。此ノ卷ニ輯メタル歌ハ都テ二百六十三ナリ。其ノ出所ニツキテハ之ヲ四種ニ分ツコトヲ得ベシ。(一)組合一致両会ノ旧讚美歌ヨリ取りテ改正セシモノ、(二)他教會ノ歌集ヨリ許諾ヲ得テ撰拔セシモノ、(三)英語ノ讚美歌集ヨリ翻訳セシモノ、(四)委員ノ新作ニ係ルモノ是ナリ。而シテ其ノ三四ノ種類ニ属スル歌ハ本集ニ最モ多数ヲ占ムルモノナリ。委員ハ此ノ集ノタメニ版權ヲ獲タリ。此ハ乱雜錯誤ノ弊ヲ防ガント欲スルマデノ用意ニ過ギズ。他ノ出版ニオイテ之ヲ用キント欲スルモノアラバ委員ハ協議ノ上之ヲ許スニ咨カナラザルベシ。又本集ノ事ニツキ問ハント欲スルモノアラバ喜んで答フル所アルベシ。此ノ歌集固ヨリ完全ナルモノニ非ズトイヘドモ、之ニ由リテ完全ナル上帝ヲ讚美スル一助トナリ、又唯ダ世ヨリ贖ハレタル者ノミ能ク学ブコトヲ得ベキ宝座ノ前ノ新歌ヲ謳フ予備トモナルヲ得バ、是レ委員ノ満悦スル所、是レ編者ノ切望スル所ナリ。委員ハ湯淺治郎氏ニ対シテ謝辞ヲ呈スルヲ適當ト思惟ス。同氏ハ本書ノ出版ヲ負担シテ大ニ力ヲ尽サレ、為ニ委員ノ勞ヲ減少セシメタリ。

明治二十三年八月

讚美歌編輯委員識

〔新撰讚美歌〕目次

大能	………	三六、三九	52	全智全能	………		四一
万有の主	………	三七	52	摂理	………		四一
万有の王	………	三六	51	彰榮	………	四二、四三	四三
聖 父	自第三六	至第五九	51	神の徳	………	四四	四四
三一の神	自第三一	至第三五	48	愛護	………	四五、四六、四七	四七
聖 書	自第二七	至第三	45	守の城	………	四八	四八
主の祈	………	二六	45	恵と守	………	四九	四九
祈の家	………	二五	44	恩寵	………	五〇	五〇
献身の祈	………	二四	43	恩寵と真理	………	五一	五一
祈禱	………	一九、二〇、二一、二二、二三	41	恵の光	………	五二	五二
主の日	………	一六、一七、一八	38	恵と忍	………	五三	五三
閉会	………	一四、一五	37	愛と恵	………	五四	五四
開会	………	一〇、一一、一二、一三	34	愛と慰	………	五五	五五
夕	………	四、五、六、七、八、九	30	力と恵	………	五六	五六
朝	………	一、二、三	27	救の力	………	五七	五七
礼 拝	自第一	至第三六	27	御子を賜ふ	………	五八	五八
聖 子	自第三六	至第八六	66	降誕	………	六〇、六一、六二	六六
全智全能	………		四一				
摂理	………		四一				
彰榮	………	四二、四三	四三				
神の徳	………	四四	四四				
愛護	………	四五、四六、四七	四七				
守の城	………	四八	四八				
恵と守	………	四九	四九				
恩寵	………	五〇	五〇				
恩寵と真理	………	五一	五一				
恵の光	………	五二	五二				
恵と忍	………	五三	五三				
愛と恵	………	五四	五四				
愛と慰	………	五五	五五				
力と恵	………	五六	五六				
救の力	………	五七	五七				
御子を賜ふ	………	五八	五八				
降誕	………	六〇、六一、六二	六六				

降世	六三、六四	68	父の右に坐す	六七
品位	六五	70	再臨	八六
模範	六六、六七	70	聖 靈	自第八九 至第九三
野の試	六八	71	導を求む	九三
苦難	六九、七〇	72	拯 救	自第九四 至第百一六
死	七一	73	人の零落	九四、九五
復活	七二、七三	74	警告	九六、九七
耶穌の御世	七四	76	招き	九八、九九、百、百一
司職	七五	76	主の招き	百一、百二、百三、百四、百五、百六、百七、百八、百九、百十
中保者	七六	77	主の導き	百一
善牧者	七七	78	贖ひ	百二
救主を崇む	七八、七九	78	十字架の贖	百三
救の水	八〇	79	贖の喜び	百四
救の磐	八一	80	聖血罪を洗ふ	百五
恵と愛しみ	八二	80	天門ひらく	百六
道と真と命	八三	81	恵の光	百七
真の光	八四	81	生命の水	百八
耶穌の名	八五	82	悔改	百九、百十、百十一、百十二、百十三、百十四、百十五
主の栄	八六	82		

基督にゆく	頁一六	主にたよる	頁五七
信徒生活	頁一〇七	主をみて喜ぶ	頁五八
霊の戦	頁一〇七、頁一〇八、頁一九、頁三三	主を愛す	頁五九
勝利	頁一一	主の慰	頁六〇
勇気	頁一二、頁一三、頁一四、 頁一五、頁一六、頁一七	主の声を求む	頁六一
奨励	頁一六、頁一九	恵を求む	頁六一
勤勉	頁二〇、頁二一	光を求む	頁六二
熱心	頁二二、頁二三	十字架に頼る	頁六四、頁六五
義務	頁二四	十字架の誇	頁六六
特権	頁二五、頁二六、頁二七	神の恵に頼る	頁六七
一切を献ぐ	頁二六、頁二九	神にゆく道	頁六八
一切を捨て従ふ	頁三〇	神に近づく	頁六九
耶穌に従ふ	頁三一	神ともに在す	頁七〇
耶穌に逃る	頁三二	エホバの導き	頁七一
牧者に従ふ	頁三三	試煉	頁七二、頁七三、頁七四、 頁七五、頁七六、頁七七
耶穌と偕にあり	頁三四	憂苦	頁七八、頁七九、頁十、 頁一一、頁一二、頁一三
耶穌ともに在す	頁三五	信仰	頁一四、頁一五、頁一六
耶穌の助	頁三六		

希望	……………	頁十七、頁十八、頁十九	150	友を慕ふ	……………	二頁	162
望の喜	……………	頁九十	152	国	……………	二頁	163
基督を望む	……………	頁十一	152	自第三頁 至第二十三	……………	二頁	163
望を主に置く	……………	頁十二	153	審判の日	……………	第二十四	166
天を望む	……………	頁十三	153	神の教会	……………	自第二十五 至第二十四十一	167
御名を讃む	……………	頁十四	154	教会設立	……………	二頁五、二頁六	167
主の恵を讃む	……………	頁十五	154	牧師就任	……………	二頁七	168
復興	……………	頁十六	155	按手礼	……………	二頁八	169
基督教徒の死	……………	自第頁十七 至第二頁	156	宣教者	……………	二頁九	169
死近し	……………	頁十七	156	聖餐	……………	二頁十	170
死別を慰む	……………	頁十八	156	バプテスマ	……………	二頁十一、二頁十二、二頁十三	170
死は生の門	……………	頁十九	157	小児バプテスマ	……………	二頁十四、二頁十五、二頁十六	172
安眠	……………	二頁	158	伝道	……………	{ 二頁十七、二頁十八、二頁十九、二頁二十、二頁二十一	174
主の旨	……………	二頁一	158	教の振興	……………	二頁二十二、二頁二十三、二頁二十四	177
葬	……………	二頁二	159	変らぬ力	……………	二頁二十五	179
永遠の住居	……………	二頁三	159	信徒の交	……………	二頁二十六	180
天の栄	……………	二頁四	160	親睦	……………	二頁二十七	180
父に帰る	……………	二頁五	160	献堂	……………	二頁二十八、二頁二十九、二頁四十	181
友を弔ふ	……………	二頁六	162	記念	……………	二頁十一	183

童 蒙	自第二四十二	至第二四十七	184
天の賜物	……………	……………	184
天国	……………	……………	184
神在さざるなし	……………	……………	186
小は大となる	……………	……………	186
祈禱	……………	……………	187
夕の祈	……………	……………	188
雑の部	自第二四六	至第二四六三	188
神学校	……………	……………	188
学生の別	……………	……………	189
送別	……………	……………	190
婚姻	……………	……………	191
新年	……………	……………	192
歳暮	……………	……………	192
秋穫	……………	……………	193
国の祝	……………	……………	194
馬太伝五章	……………	……………	197
聖詩二篇	……………	……………	198
頌 栄	自第二四六四	至第二四七四	200
讚 詠 文	自第二四七五	至第二四八六	203
聖詩九十五篇	……………	……………	203
聖哉頌	……………	……………	204
路加伝一章	自六六節	……………	206
路加伝一章	至七九節	……………	206
聖詩百篇	……………	……………	208
路加伝一章	自四六節	……………	208
路加伝一章	至五五節	……………	208
聖詩九十八篇	……………	……………	210
聖詩九十二篇	……………	……………	211
路加伝二章	自二九節	……………	212
路加伝二章	至三二節	……………	212
聖詩六十七篇	……………	……………	212
聖詩百三篇	……………	……………	213
復活の聖語	……………	……………	214
天上の栄	……………	……………	215
十 誠	……………	……………	216
主の祈	……………	……………	218

